

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 662 号	氏名	Endang Pujiyati
学位審査委員	主査 山城 哲 副査 平山 謙二 副査 濱野 真二郎		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究では、デング熱ウイルスやチクングニアウイルスを媒介可能なヒトスジシマカに関し、殺虫剤であるピレスロイドに対する抵抗性の機序を Dichloro-diphenyl-trichloroethane (DDT) に対する交差抵抗性の可能性も含めて解明しようとするものであり、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 長崎市内および国内各地より採取したヒトスジシマカ幼虫および成虫に対し、ピレスロイドや DDT に対する感受性試験ならびに協力剤を用いた協力効果試験を行い、ピレスロイドや DDT の作用点である電位依存性ナトリウムチャンネル (VSGC) の塩基配列を解析するなど、上記殺虫剤に対する抵抗性の機序を検討した研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 長崎市内採集のヒトスジシマカの多くがピレスロイド抵抗性を示し、その主要因はシトクローム P450 関連の酸化酵素の増大による事が示唆された。また本種において DDT 抵抗性が全国規模で普遍的に存在する事が明らかとなり、その抵抗性にはグルタチオン-S-転移酵素の関与が示唆された。今後、ヒトスジシマカの殺虫剤抵抗性発現機序に関して、更なる研究の進展が期待される。</p>			
<p>以上はデング熱ウイルス媒介蚊でもあるヒトスジシマカの防除における有効な薬剤の選択に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			